

学長のマネジメント体制の強化

学長 中島三千男

2003年度に始まり2007年度に終了した神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の研究成果については、すでに、最終年度に6種類のデータベース、18冊の研究成果報告書という形で刊行されていますが、本総括報告書は、第1部でそれらの研究成果を要約・総括すると共に、第2部においては若手研究者の育成や国際交流などの事業総括を行い、さらに第3部として諸資料を収録しています。つまり、この報告書を読めば、神奈川大学21世紀COEプログラムの5年間の活動の全貌が把握できるものとなります。

文部科学省のCOEプログラムの目的は、国際的競争力のある大学を作り上げるために、世界的な研究教育拠点を形成するというものであり、また、そのためにも学長のマネジメント体制の強化、学長のリーダーシップのもとでの教学改革の推進が期待されていました。この後者の点における本学の取り組みとしては、何よりも、2004年度に学術研究を専管する副学長を置き、その下に本学における研究活動を総合的に支援・推進する「総合学術推進委員会」を発足させたことが大きい。この委員会は7学部・8大学院・8研究所を横断する研究活動に関する審議機関であり、21世紀COEプログラムやハイテクリサーチセンター整備事業・学術フロンティア事業などの大型プロジェクトを管轄し、産官学の連携や研究成果の社会的還元、国際的な学術交流等をより一層強力に推進するセンター的機能を果たしています。事実、この委員会のもとで、昨年度には優れた外部の研究者や外部資金を積極的に導入して、本学の研究・教育活動を一層活性化させるために、「プロジェクト研究所」制度や「研究所客員教授」

制度が新たに導入されました。

また、この4月には本学の研究教育活動を一層活性化させ、本学の知名度を一層高めるために、各学部の教員定数の枠外で、理事長・学長のイニシアティブのもとで優秀な教員を採用できる、「特別招聘教員」制度も施行されました。

さて、本事業は新しく創設された「神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター」に受け継がれて行きます。本学は本年創立80周年を迎えるにあたり、20年後の100周年にむけての「将来構想」を発表、その中で「地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する大学」を目指すことを宣言しましたが、この非文字資料研究センターを核とした新しい研究教育活動をその目標達成の先導役として、今後とも学長のイニシアティブのもと、積極的に支援していく所存です。

最後になりましたが、本学のCOEプログラムを推進された拠点リーダーの福田アジオ教授を始めとする研究担当者の皆様方、またCOE支援事務を担当された寺島剛真審議役・長谷川千穂氏、学長事務室の古閑安明課長を始めとする事務職員の皆様方、さらに担当副学長として、最後の1年間、拠点形成委員会の委員長をお勤めいただいた池上和夫教授、その他、本事業に関わっていただいた全ての皆様方に、深甚の謝意を表させていただきます。